

2024

研究紀要  
第77号

# 主体性の高まりをめざす課題学習

—「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を  
実現する授業づくり—【4年次】

富山大学教育学部附属中学校

## ご あ い さ つ

校長 山 根 拓

本校ではこれまで研究主題「主体性の高まりをめざす課題学習」を掲げ、課題を解決するための思考力や主体的に学び続ける態度の育成を求めて、研究・実践に取り組んできました。平成23年度から26年度までは、「思考力・判断力・表現力等」の育成のため、「課題学習」における「言語活動の明確化と充実」について研究を進めてきました。そこで「思考」と「言語活動」の相互関係を明らかにし、今後の課題として、言語活動を有効なものとするため、各教科で「付けるべき力」を明確にすることが再認識されました。

それを踏まえ、平成27年度から令和元年度までは「教科の本質に迫る授業づくり」を新たな副題とし、(1)「教科の本質を踏まえて『身につけるべき資質・能力』を明確にした授業づくり」、(2)「実践を見据えながら、学びを活用・発揮・実感させる授業づくり」、(3)『『問い』により思考・判断・表現を促す授業づくり』の3つの視点を設定し、それに基づき「教科の本質(1年次)」、「付けたい資質・能力(2年次)」、「『学習課題』と『問い』(3年次)」、「学びの活用・発揮・実施(4年次)」に重点的に取り組み、最終年次は「まとめ」として、3つの視点を有機的に関連付けました。その成果として、教師が「身に付けさせたい資質・能力」を明確にした上で教科固有の「見方・考え方」を働かせる「問い」を工夫することにより生徒の学びは深くなる、ということがわかりました。

ここから、生徒が「深い学び」に達するための鍵となる「見方・考え方」とは何か、また、教科固有の「見方・考え方」を働かせるためにどのような「問い」を設定すればよいのか、そして「深い学び」とはどのような状態で実現したと言えるのかという、次の課題が浮上しました。それを承けて、令和2年度からは新たな副題として、『『見方・考え方』を働かせ、『深い学び』を実現する授業づくり』を設定しました。

初年次である令和2年度には、まず(1)「深い学び」を実現する単元構成、(2)働かせる「見方」と「考え方」の明確化、(3)「見方・考え方」を働かせる「問い」の3つの視点を設定しました。令和3年度(2年次)には、そのうち「深い学び」を実現する単元構成、ならびに「見方・考え方」を働かせる「問い」に重点的に取り組み、各教科で学習活動の分析・整理を行い、これまでの授業実践を捉え直しながら、副題に迫るための単元や題材を構想しました。令和4年度(3年次)には、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方に関する研究に取り組みました。そして、4年次に当たる令和5年度は、3年次に引き続き、「指導と評価の一体化」を視点に研究を進めてまいりました。本紀要では、第4年次の研究成果をまとめておりますので、皆様の忌憚のないご意見をいただきたく存じます。

最後になりましたが、日頃からご指導を賜っております文部科学省、富山県教育委員会、富山県中学校教育研究会をはじめとする関係機関の皆様、本校教職員先輩の皆様には厚く御礼申し上げます。今後とも、本校の実践研究活動の進展のために、温かいご指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。